



2
4

第1問 答案用紙<2>
(監査論)

問題 3

問 1

経営者は財務諸表を適正に作成し、そのために必要で内部統制を整備する義務を負う。そのうち、有効な内部統制が欠け、重要な資産損失を招くリスクを減少させるため、有効な内部統制を確保し、運用に評価している。そのうち、監査人の監査により、企業及び重要資産や、内部統制の不効力に関する情報が入手している。以上の、運用リスクの評価であるが、経営者は監査を行わず。

問 2

運用評価手続を立案し実施しなければならない場合： 支払利息の計上の複雑性、および取引の発生、定型的な取引、社内組織的に取組むことにより取引の発生が一元化され、月末締めを行う際の支払手続、および運用評価手続と支払処理が一致する必要がある。

その理由： 監査リスク。已済の取引の発生が、効果的な監査の実施を阻害し、取引評価手続の決定に重要な資産損失を招くリスクを発生させる。リスク対応手続の観点から、定型的な取引は合理的に発生しているため、運用評価手続と支払手続を一致させるべきである。取引の発生が複雑な場合は支払手続の発生が、適切な監査証拠を入手できない可能性がある。そのうち、内部統制に依存し、取引は運用評価手続が行われることにより、発生リスクを減少させる。適切な監査証拠を入手すること。

直叙と制限。問題3 句の句。
ほかの点については思い入れ

評	点



4
4

第2問 答案用紙<2>
(監査論)

問2

監査法。

△ 第三者委員会が調査結果を専門家の審判の範囲に限定する。その目的、第三者委員会が適切に職務を遂行し得る。その専門家の独立性、公正性、相当性、継続性等を担保し得る。また、不正行為の発生に際して、第三者委員会が調査の範囲を決定し、調査の目的を定めて、第三者委員会が調査の適切な範囲を決定し得る。また、第三者委員会が不正行為を遂行し得る。

問3

△ 【記載区分】 監査事項
△ 【記載事項】 訂正後の連結財務諸表に於いては、調査結果に於いての明瞭性を高める。また、不正行為の発生に際しては、調査結果を明瞭に記載する。また、不正行為の発生に際しては、調査結果を明瞭に記載する。

評	点